



日本学術会議公開シンポジウム 第18回防災学術連携シンポジウム

人口減少社会と防災減災

日時：令和6年3月25日(月) 15時30分～18時50分

主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、(一社)防災学術連携体

開催方法：ZOOM webinar (定員500名)、Youtube (申込不要)

ZOOM webinarに参加希望の方は、次のフォームから申込下さい

<https://ws.formzu.net/fgen/S79526201/>

開催趣旨

人口減少下においては防災減災の仕組みの再検討が必要である。例えば、インフラが老朽化する中で、気候変動等による災害の激甚化を受けて、耐災害性の強化が求められている。政府予算が限られる中で、災害危険性の少ない場所へのコンパクト&ネットワークが理想であるが、実現には課題が多い。

広範囲な被災が想定される南海トラフ地震においては、東日本大震災のような大規模な復旧工事の再現は難しい。能登半島地震においても人口が減少する中で、被災した過疎地域の復旧のあり方が課題となっている。さらに、防災・被災者支援の担い手不足も指摘されている。防災施設の基準や運用の見直しも必要だ。

人口減少社会における防災減災のあり方について、多様な視点から総合的に議論したい。

プログラム

司会 米田雅子 (防災学術連携体代表幹事、東京工業大学特任教授)

田村和夫 (日本学術会議連携会員、建築都市耐震研究所代表)

15:30 開会挨拶 竹内 徹 (日本学術会議 防災減災学術連携委員会委員長)

15:33 趣旨説明 森本章倫 (防災学術連携体代表幹事、日本都市計画学会会長)

15:40～ セッション1 「人口減少社会における原子力防災減災のあり方について」

ー福島原発事故から13年後の福島の実態と課題(各発表11分、入替1分)

「人口減少社会における原子力防災減災のあり方について」 日本計画行政学会 川崎興太 (福島大学)

「東日本大震災による不可逆な地域の変容と復興ー福島原子力災害を事例として」

日本地理学会 瀬戸真之 (福島大学)

「人口減少社会における復興支援：福島医療復興支援の経験から」

日本災害医学会 小早川義貴 (国立病院機構本部 DMAT 事務局)

「そこに住み続けることの意味を問うー「複線型復興」と避難住民の「二重の地位」をめぐって」

日本地域経済学会 山川充夫 (福島大学)

質疑応答 (10分)

16:38～ セッション2 「人口減少下の防災減災」(各発表11分、入替1分)

「人口減少社会における空き家と地域の建物倒壊リスク」 地域安全学会 村尾 修 (東北大学)

「超高齢・人口減少社会の火災安全」 日本火災学会 鈴木恵子 (消防庁消防研究センター)

「ため池デジタルプラットフォームを活用したため池の遠隔監視体制の整備」

農業農村工学会 泉 明良 (農研機構農村工学研究部門)

「人口減少 X 危機多発時代の人々・コミュニティに求められる看護の現場と役割」

日本災害看護学会 神原咲子 (神戸市看護大学)

「人口減少社会におけるグリーンインフラを使った防災・減災手法について」

日本緑化工学会 木田幸男 (グリーンインフラ総研)

質疑応答 (10分)

17:48～ セッション3 「中長期的に人口減少と防災減災を考える」(各発表11分、入替1分)

「歴史上の気候変動と人口変動の関係性から学ぶ」 日本第四紀学会 中塚 武 (名古屋大学)

「将来メッシュ人口の推計と洪水暴露評価」 日本自然災害学会 吉田 護 (長崎大学)

「人口減少下における流域治水と新たな地域創造の可能性」 土木学会 谷口健司 (金沢大学)

「人口減少社会の都市計画と防災減災」 日本都市計画学会 姥浦道生 (東北大学)

質疑応答 (10分)

18:46 閉会挨拶 目黒公郎 (日本学術会議連携会員、東京大学教授)

18:50 終了

問合せ先：一般社団法人 防災学術連携体

〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-4 ワイヒルズ2階

電話：03-3830-0188 ファックス：03-5876-8463 mail：info@janet-dr.com